

症例（事例）報告について

○事例（症例）報告に記載する項目は次の7項目です。

<患者（対象者）情報>

プロフィール（年齢、性別、職業）、傷病名（病歴）、身体状況（身長、体重など）、生活背景

<介入までの経過>

対象者（患者）への介入（紹介）までの経過を経時的に記載する。

<栄養スクリーニング>

スクリーニングツールの記載、スクリーニング結果の提示または紹介（多職種からの紹介）理由。

<栄養アセスメント>

栄養アセスメントは、FH「食物/栄養関連の履歴」、AD「身体計測」、BD「生化学データ」、PD「栄養に焦点をあてた身体所見」、CH「既往歴」の5つの項目から問題点を抽出して実施し、栄養に関する問題を正しく導き出す。

<栄養診断>

栄養診断は、NI「摂取量」、NC「臨床栄養」、NB「行動と生活環境」の3つの項目からなる70種類の国際標準化された栄養診断から適する栄養診断コードNoと用語を選択する。

※栄養診断 P (Problem or Nutrition Diagnosis Label) は、E (Etiology: 原因や要因) と S (Sign/Symptoms: 栄養診断を決定すべき栄養アセスメント上のデータ) により決定する。

初回指導時に栄養診断の根拠に用いたアセスメントと栄養診断・計画を SOAP で記載する。

栄養診断：NI エネルギー摂取量過剰・・・
S: (主観的データ)
O: (客観的データ)
A: 栄養アセスメント+栄養診断 (PES) での記入
P: Mx)
Rx)
Ex)

<栄養介入とモニタリング・再評価（臨床経過）>

栄養介入は、栄養診断とその病因に基づいて ND「食物・栄養提供」、E「栄養教育」、C「栄養カウンセリング」、RC「栄養ケアの調整」の4つの項目から対象者のニーズに合わせて、栄養摂取、栄養に関連した知識・行動・環境状態などの栄養問題を解決（改善）する。

- 1) 目標栄養量
- 2) 栄養介入計画（栄養アセスメントの FH、AD、BD、PD の項目の中から設定する。）
- 3) 栄養介入の経過

<栄養ケアプロセスの総合的評価>

※記載上の注意点

- ・ A4用紙3枚（片面印刷）にまとめる。
- ・ 本文の基本フォントは、MS 明朝体（英数字記号は半角を使用し、MS 明朝体または Times New Roman）、文字の大きさは、10.5 ポイントとする。
- ・ 句読点は、日本語は句読点（、）マル（。）、英文は、コンマ（,）とピリオド（.）を使用する。
- ・ 検査値や計測値には、必ず単位を入れる。また、記載する場合は、数字と単位の間（単位同士の間）に半角スペースを入れる。
- ・ データは、個人や施設名が特定できないように配慮して記載する。